

第3回新しい学校づくり阿南市地域協議会議事録

議 事

・新しい学校の教育の基本方針について

委員

この協議会では、阿南工業高校と新野高校の2校の再編を主として協議していくこととなっていますが、阿南の子どものことを考えますと、前回の論点整理「その他」の1番目の「阿南地域にも中高一貫教育の導入が必要である」について、ご意見をいただいております。このことについて、委員の皆様のご意見をお願いします。

委員

オンリーワン徳島行動計画に「中高一貫教育」全県展開がいられております。平成22年までに県南に導入ということ聞いています。そのことについて教育委員会はどう考えていますか。

委員

多様な教育を選択できるようにするため、中高一貫教育を導入するということは理解できますが、中高一貫教育を導入している学校のメリット・デメリットをどのように捉えていますか。

委員

中高一貫教育の導入については、知事選の公約となっています。県教育委員会としての今までの大きな方針があると思いますが、知事の公約を優先して取り組むことになりますか。

県教育委員会

まず、中高一貫教育のメリットについてですが、第1点目は、中学校進学時に生徒や保護者が今までの中学校に加えて中高一貫教育を選択できること、2点目は、高校入試の影響を受けずに中高の6年間を通した計画的・継続的な教育が展開できること、3点目は、中学校と高校を併設しているため、異年齢集団による活動を通して社会性や豊かな人間性を育成できることなどであり、今まで以上に生徒一人ひとりの個性を伸ばすことが可能になることが挙げられると思います。

知事の公約についてですが、知事の公約以前から、県教育委員会として県南部に中高一貫教育を導入してはどうかという声もございました。徳島市内では、平成16年に城ノ内高校に城ノ内中学校を併設して中高一貫教育を導入しています。また、県西部では、平成18年に川島高校に川島中学校を併設して中高一貫教育を導入しています。県央や県西部の児童や保護者は中高一貫教育を選択できますが、県南部では選択できないことは課題としてご指摘をいただいていることであり、県教育委員会としても、県下の状況を見た場合、県南部にも中高一貫教育を導入する必要があることは認識していました。

委員

その方向で、具体的な検討に入っていますか。

県教育委員会

まだ具体的には進んでいません。

委員

子どもが富岡小学校に通っていますが、保護者の中では、中高一貫教育の魅力について話されています。今、中高一貫教育を選択したい場合は徳島市内の中高一貫教育校に行くしかない現状であります。それを希望する子どもや保護者もいます。朝早くから起きてJRで通うなど生活面でも経済面でも負担がありますので、是非、中高一貫教育を県南部に導入していただきたいと思えます。

委員

中高一貫教育については、知事が公約しているので任期の間、今期4年間で実施することになると思いますが、県南部では具体的に阿南市に中高一貫教育校を設置するのか、そのことが高校再編に、阿南市の地域協議会の協議に影響を及ぼすのかについて県教育委員会の考えを伺えますか。

委員

このことに関する質問が他にもございましたら続けてお願いします。県教委にはそれらについてまとめてお答えいただきたいと思えます。その他にご質問はございませんか。

委員

3点お伺いします。第1点は、この協議会において中高一貫教育のことを議論するということは、3校(阿南工業高校と新野高校の統合再編校、富岡西高校、富岡東高校)すべてに渡って検討していくのか、2点目は、多様な教育を選択できることについて分かりにくいので、もう一度説明をお願いします。3点目は、どこの高校に造るのかが大きな問題となってくると考えます。

城ノ内高校のように希望者が多いところに中高一貫教育を導入すると、周辺の中学校は大きなダメージを受けます。阿南市内には4つの大規模な中学校がありますが、それ以外の周辺の6校は小規模校であり、部活動の関係等で大規模校に流れる傾向があります。その様な状況の中で中高一貫教育校ができると、1学年1クラスの小規模の中学校から優秀な生徒が抜けていくことも考えられます。高校サイド、中高一貫教育校は活性化するかも知れませんが、周辺の中学校がダメージを受けることも考えられます。その辺についても十分考慮する必要があると思えます。

高校の定員は中学の生徒数に基づいて策定されていると思えますが、中高一貫教育の導入によりどのような影響が出るのか、中高一貫教育校が全県一区であるとするると他地域から生徒が流入してきて地元の中学生在が入りにくくなるのではないのでしょうか。

委員

私たちは、阿南工業高校と新野高校の再編について協議する委員として任命されていますので、中高一貫教育校についてこの協議会で議論を深めていくことは難しいと思えますが、県教委としてはどのように捉えていますか。

県教育委員会

県南部では、阿南市に中高一貫教育校を導入するのかがというご質問がありましたが、県南部とは小松島市から南であると考えています。

高校の再編に影響を与えることのないように中高一貫教育を導入していく方向で検討していくため、この地域協議会では、阿南工業高校と新野高校の再編についてご協議いただきたいと考えています。

どこの高校に導入するのかがということですが、具体的に県南部のどこの地域のどの高校かということは決定しておりません。中高一貫教育の検討をするなかで周辺の中学校への影響についても十分に検討していきたいと考えています。

県央や県西部では中高一貫教育校の選択肢がありますが、県南部では選択肢がないことについてどう思われるのかご意見を伺い、今後の中高一貫教育の導入に活かしてまいりたいと考えています。

委員

阿南市においては、中高一貫教育ではなく、福井小学校・中学校において小中一貫教育の研究に取り組んでいます。また、少子化のことについても考慮した上で今回の中高一貫教育の導入を考えているのですか。

城ノ内中学校と川島中学校では希望者数に違いがあると思いますが、両校とも中高一貫教育を導入して教育効果が上がっていますか。

県教育委員会

城ノ内中学校については、1期生が高校1年になったところであり、川島中学校については、1期生が中学校2年になったところです。まだ卒業生がでていないため、教育効果についてもその結果を見てからになると思いますが、「中高一貫教育校に入学して良かった」という声を聞いております。

委員

その声は、学力向上が一番であるということですか。

県教育委員会

中高一貫教育の特徴は、併設中学校からそのまま高校へ上がるということで、高校入試の影響を受けずに中高の6年間を通した計画的・継続的な教育が展開できることであり、自分の将来についてじっくりと考えることもできます。学力向上面からでてきた声ではないと考えています。

委員

6年間のスパンで考えるということですが、極端に言えば、中学・高校と分ける必要はないということですか。

県教育委員会

制度的にはその様な中高一貫教育校(中等教育学校)もありますが、徳島県には導入されておりません。城ノ内中学校・高校の場合は、中学校に入学して入試なしで高校に進学する生徒と高校入試を受けて進学してくる生徒がいます。城ノ内中学校は3クラス、川島中学校は2クラスで

あり、高校としての適正規模を満たしていないため、高校になった時点で新しく生徒を受け入れることで、高校の学校規模を確保して多様な教育の展開や部活動の活性化を図り、生徒同士も切磋琢磨しながら成長できる併設型中高一貫教育校としております。

委員

今回は、中高一貫教育の議題が本論ではないと思いますが、メリット・デメリットについてあえて伺っているのは、中高一貫教育校に入学した子どもと保護者は非常に満足すると思います。しかしながら、不合格となった子どもや保護者、周辺の小規模中学校の子どもや保護者の気持ちを心配しています。導入にあたっては、中学校の先生や生徒、保護者の意見も十分尊重しながら考えてほしいと思います。

委員

中高一貫教育については、メリットもあるがデメリットも多くあると考えていますが、仮に県南部に中高一貫教育校が設置されることになると、全県一区で募集されることになり、定員の状況が変わってくるのではないのでしょうか、そのことが、阿南工業高校と新野高校の再編統合に影響するのではないですか。

県教育委員会

基本的には、影響を与えない方向で検討していきたいと考えています。

委員

県南部全体ということですが、我々としては阿南市ということで意見を述べてきました。阿南市の子どもたちにとって中高一貫教育の導入がよいものとなるよう、今回の意見も含めて地域の意見を聴きながら、県教委の方で十分に検討して進めてくださるようお願いいたします。

委員

将来的に阿南市内に3校の高校が存在することとなりますが、その3校に入学するすべての生徒が胸を張って喜んで進学できるように再編を進め、それぞれが特色を持った高校となるようにしていくことが大切であると考えます。

阿南工業高校と新野高校とを合体させて新しい高校を作ることも大切ですが、市全体のことを考えますと、中高一貫教育の導入も考慮して、富岡西高校、富岡東高校を加えて3校を一緒に考えていく必要もあるのではないのでしょうか。このままでは新しい学校が苦戦するようになってしまう気がします。この協議会の主旨とは異なるとは思いますが、3校が並び立つような素晴らしい高校となるように考えていくことが、3校に進学するすべての子どもの幸せにつながると思います。

委員

今おっしゃったように、この協議会は阿南工業高校と新野高校の2校を再編する新しい学校が阿南市の生徒から魅力あるといわれるようにするにはどうしたらよいかを議論しています。この2校に絞って議論していくということでご理解いただきたいと思えます。

委員

「目指す学校像」にある「地域に貢献できる学校」について、具体的にどのようなことを考えていますか、また、「育てたい生徒像」にある「ボランティア活動」について、具体的にどのようなことがあるのか説明してください。

事務局

新野高校においても地域に根ざした学校づくりに取り組んでいます。伝統となっているバイオテクノロジーを活用して絶滅が危惧されているイシマササユリの保護活動、また、本校で育成した四季折々の草花を新野駅、阿南駅、市役所、消防署などの公共施設に配布し、美化に努める花いっぱい運動、春の選抜高校野球に出場したときに地域からお世話になったことをきっかけに始めたクリーンウォークラリーと名付けた地域の清掃活動などを実施しております。

事務局

阿南工業高校のボランティア活動としては、老人ホームに出かけて車椅子やプランターなどの修理を行う、また、校内に株式会社「鉄男」があり色々な作品をつくりその売り上げで車椅子を寄付したりしています。

また、ボランティアではありませんが、地域に貢献するということで小学校へ出前授業に行っています。

委員

新野高校に伺いたいのですが、前回配布された入学案内には暮らしクリエイイト系列に「グリーンボランティア」の時間がありましたが、今回の入学案内では「作物」の時間に変わっています。学科としてボランティアに取り組まないということですか。

事務局

これは科目であってボランティア活動と直接に関係はしていません。教育課程の見直しということで、生徒にとってどのような学習が効率的であるかという観点で変更したものです。学校行事ということで、ボランティア活動には全校生徒が取り組んでいます。

委員

「目指す学校像」、「育てたい生徒像」について付け加えたい事柄はありませんか。

委員

親が甘やかしているせいもあるかも知れませんが、ちょっとしたことで挫折する子供が増えていのように感じます。社会の厳しさ・現実には負けない、また、立ち向かえるような心身ともに強い子どもを育てる項目を付け加えてほしいと思います。

委員

その他にご意見がないようですので、次回までに事務局に案を取りまとめていただくということでよろしいでしょうか。では、その様をお願いします。

委員

今後、生徒数が減少していくことを考えて、新しい学校の想定される生徒数・規模について、また、その規模でどれぐらいのコース・系列が作れるのかについて教えてください。

事務局

阿南市の生徒数については、平成30年度までは増減を繰り返すことが予測されていますが、小松島市や海部郡等周辺地域まで考慮すると生徒数が減少していくことが予測されています。現時点で再編時に何名の定員となるとはつきりは答えられませんが、200名程度の高校として開校することになるのではないかと考えています。

今後「総合学科の規模、工業科の規模をどうするのか」について委員の皆様と議論していただく中で、コースや系列の数についても変わってくるようになりますが、例えば、総合学科であれば先程の説明にありましたように系列を増やして教育内容を充実していく必要がありますので、現在の3系列から4系列あるいは5系列が展開できるように検討していく必要があると考えています。

委員

現在の阿南工業高校と新野高校の1学年の定員の総数はどれぐらいですか。

事務局

両校を合わせて、210名となっています。

委員

全体として生徒数が少なくなるため、少し小さくなるのは致し方ないと思います。その時点で、富岡西高校や富岡東高校はどうなりますか。

事務局

富岡西の場合は、現在は250名で7クラスありますが、それが若干減って6クラス規模になるのではないかと考えております。富岡東高校の場合も同様に考えておりますが、定員の設定については、中学3年生の進学希望も考慮されておりますので、あくまで目安ということでお願ひします。

委員

定員が少し減ることになろうとも教育内容を充実させて、富岡西高校、富岡東高校と肩を並べていけるような魅力ある学校にしていくことが重要であると思います。

委員

資料の2ページに書いてある教育の基本方針については、新しい学校だけではなく、どの学校についても大切なことであると思います。

また、3校に再編する場合、各高校の規模をどうするかということは重要な要素です。現在、阿南市において普通科定員が1学年で合計450名ぐらいであるが、生徒数が減ってくればそれが減っていきます。徳島県合計では生徒数の大体7割が普通科だが、阿南市はその割合が現在も低いので、普通科の定員を減らしてはならないと考えられます。

また、耐震工事ができずに新築する場合は考え方に自由度がありますが、厳しい財政状況から既存の施設を耐震改修して有効活用する場合は、かなり制約されることも考えられます。どのように新しい学校の教育を行っていくのかについて考えていく上で、施設のことも考えていかなければならないと思います。

学校規模や施設のことを具体的に協議していかなければ、理念ばかりに終始して具体的な図面を描けないのではないのでしょうか。

既存の2つの学校の校舎の耐震診断についてはどのような状況ですか。

県教育委員会

耐震診断についてはかなりの時間と費用がかかるため、それに先だって優先度調査を行っています。優先度調査とは、コンクリートの強度など簡単な検査をして、耐震化を進める上での優先順位を決めるものです。

その調査により、壁を壊さずに補強だけで耐震化できる建物、あるいは、壁を壊してかなり大規模に改修しなければならない建物、基準を下回っており新築しなければならない建物などに段階付けをして、耐震診断・改修を効率的に進めており、昨年度は県立学校4校で、また、本年度は5校で耐震改修工事を実施しております。

効率的な施設整備を行っていくためには、まず、今回の再編による新しい学校の教育内容について、ご意見をまとめていただければありがたいと考えております。その後その教育内容を実施するためにはどのような施設が必要かを検討していくこととなりますが、厳しい財政状況から使えるものは有効活用していくことになると考えております。

委員

そのことについては理解できますが、新しい学校の教育内容を決めていく上で、学校規模は非常に大切な要素であると思うので、他の2校の規模も含めて慎重に議論していく必要があると思います。

委員

もちろん規模のことも重要ではありますが、今回の協議会においては、特色ある教育内容について資料にある阿南工業高校と新野高校の教育をそのまま受け継ぐのか、それとも、新しい教育内容を加えていくのかということを議論していただきたいと思います。新しい教育内容も必要であると考えていますが、どのような新しい教育が必要かについて具体的にご意見をお願いします。

委員

「生徒一人ひとりの個性や可能性を伸ばす学校」、「国際化、情報化に対応できる学校」、「望ましい職業観、勤労観を育成する学校」などが挙げられていますが、現在の阿南工業高校と新野高校で展開されている教育だけでそれが可能かどうかを考えていかなければならないと思います。

この中で抜けていると感じるのは、家庭、商業、福祉、芸術、水産の類などです。あらゆるものをカバーできないで一部分の現在ある教育の中で進めていくというのは問題があると思うので、新しい教育内容、学科について検討する必要があるのではないのでしょうか。

阿南工業高校には女子がないということが報告されていましたが、現在、富岡東高校の商

業科は女子ばかりとなっており、県下的にこのような商業は珍しいと思います。そのような流れの中で、現在の偏った状況から、再編により良い方向へ向けていくというようなことも必要と思います。

また、高校受験のときに自分の将来の方向を決めていない現実があります。そのため、高校に入ってそのことを考えてカリキュラムを選択できることはいい視点であると思います。しかしながら、現在ある学科の中であらゆる方向に向かえるかという現在の段階では難しいと思います。現在ある学科だけではなく、再編の中で新しい学科を考えていくことが、学校の魅力づくりにつながっていくと考えます。新しい学科を設置することで、生徒や保護者にとって色々な科目選択ができて、あらゆるところに進学や就職が可能になり、素晴らしいことだと思います。

委員

今までの議論においても、2つの科を合わせていくことは前提ですが、工業科と総合学科を合わせただけではいけない、そのことに加えて新しい教育内容を考えていく必要があるということで、介護、福祉、食物などのニーズがあるのではないかという意見があったと思います。

しかしながら、少子化の中で今の阿南工業高校と新野高校を合わせた定員を確保していくことはできないと思います。何もかも作るということは難しいので、本当に何が必要かを考えていく必要があると思います。

専門学科である工業科に基盤をおくのか、総合学科に基盤をおくのか、表現があっているかどうかは分かりませんが、例えば、全く新しい第4の学科として考えていくなかで、コースや系列などについて具体的に煮詰めていくことができるのではないのでしょうか。

委員

1+1が2ではなく、1+1が3になるように考えていく必要があると思います。普通科高校としては富岡西高校と富岡東高校は残し、職業学科をどうするかという視点を持って再編を考えていくこととなっており、新しい学校が普通科と混同するようではいけないと思います。技術者や職業人としての視点を持って考えていく必要があると考えています。

委員

中学生のニーズがどこにあるのかを把握して、議論を進めていくことが大切であると思いますが、どのようになっているのでしょうか。

委員

中学生や保護者のニーズは大切であると思いますが、それに加えて、どれだけ地域に出て行けるのかという観点も同じように必要です。資料にあります産業別の総生産をみると、製造業や建設業にしても、阿南地区が人口の割合から考えていくと多様な産業を地域が持っているということは、卒業生が活躍できる場があるということであると思います。

高学歴を求めていくのではなく、地元で育ち地域の産業をさらに発展させていったり、地域に貢献しながら地域を担っていくことも大切です。進学や資格取得を目指した補習に取り組むなどしていただいております。阿南工業高校の機械電子コースとか電気コースといった分野の技術者の養成とかも非常に重要であると考えます。

また、新野高校の暮らしクリエイイト系列とかコミュニケーション人文系列で作られている伝統も大切にしていける必要があり、統合されたときにも相互に協力して活かしていけると考えられます。

女子学生が少なかったことも聞きましたが、女子学生が多様な分野に進出していることもありますから、それは、中学生にアピールしていく中で対応していけるのではないのでしょうか。

委員

伝統を活かすということの重要性や地域にも受け皿があるのではないかという、地域に根ざした地域の活性化につながるご意見だったと思います。普通科は、大学進学後、地域に帰ってきたり、いろんな世界に進出していく、それに対して職業科は、直接地域に貢献することになり、直接地域との関わりが深い、その中で、新しい学校に行くと地元就職できるとなると、新しい学校の魅力ができると思います。

委員

高校進学には、学力という要素があります。希望すればどこでも受験できるが、学力がともなっていないと不合格になるという現実、生徒も保護者も不合格になっては困るという現実があります。

少子化の影響で、高学歴を持たしてやりたいという願いがあり、富岡西高校や富岡東高校に進学させて大学に進ませたいという保護者の方も増えています。普通科の場合は、進学という目標が1つであり指導しやすいのですが、職業科の場合は、生徒に適した進路を考えていく上で、色々な学科があり単純ではなく難しい面があります。場合によっては徳島市へ行かなくてはならないが、通学費など経済的な要素が出てきます。

魅力的な専門高校ができることはそういう面でも重要であり、それによって高校進学に関する指導が適切に行えるようになってくることが考えられます。

委員

今後の流れとして、この地域協議会でどの程度の方向性を出さなければならないのか、今回で3回目の協議会であるが、共通理解をもう1回したような感じがしています。

今回で、生徒数の減少や地域の産業の状況などは押さえられたと思いますので、次回の協議会では、今日のことを踏まえて、もっと踏み込んで、総論ではなく各論をした方がよいと思います。

委員

2つの施設を活用することを前提として議論してきていますが、地域としては阿南工業高校と新野高校を合わせて新しい魅力ある学校ができることを期待しています。財政的に厳しいということは理解できますが、新しいキャンパスに新しい校舎を造るということで議論していくと、全く違った観点から考えていくことができます。県教委は難しいといっていますが、地域協議会としてはその方向で議論していったら、意見を集約して協議会の方針として提出しても良いのですか。できればその方向で進めてほしいと思います。

委員

今日の会は前回の確認に近かったので、次回はもう少し突っ込んだ議論ができるようにしてほしいと思います。また、大勢では自分の意見が十分出し切れず集約もでき難いので、できるのなら、少人数で会を持ってざっくばらんに議論して、それを全体会で集約していくという方法もとれるのではないのでしょうか。

保護者や生徒のニーズは、前期選抜、後期選抜の入試にでていると思います。しかしながら、その状況に対応できていない現状があります。既存の施設を有効活用していく方向で行くのか、知事はオンリーワン徳島を口にしてはいますが、魅力ある学校を目指す以上、有効活用は抜きにして新設というかたちで、個人的な意見としては、モデル校としての新設校がよいと考えていますが、今後の協議会の中で議論して欲しいと思います。

県教育委員会

今後の進め方等についてご意見をいただきましたが、地域協議会の立ち上げのときにも説明させていただいたのですが、まずは、阿南地域に必要な高校教育の内容について、しっかりご協議いただく、その方向性が出ますと、その教育を展開していくために、教育環境をどう整備していくかという方向に進めていただきたいと考えています。この学校のこの校舎が使えるからということから議論をスタートしていかないということをお願いします。

基本的には、高校再編方針にもあるように、現行の校地、施設の有効活用をするという観点で進めていただきたいと考えております。

委員

新しい校地に新しい校舎という意見が出ましたが、こちらから意見を言っても、最終的に「これはできません」と県教委から言われることになるのではないのでしょうか。県教委に基本的なガイドラインができていると思うので、「規模はこのぐらいで、この程度の予算を考えている」ということを、議論の前に示すことはできませんか。

県教育委員会

基本的には、阿南工業の校地と新野高校の校地のうちどちらかで行うということになります。また、施設についても使えるのであれば有効活用していく、耐震化が必要であれば、耐震補強等により使えるようにしていくこととなります。

委員

学校規模については、1学年どれぐらいになりますか。

県教育委員会

地域の生徒数、進学希望の状況などを総合的に判断して、前年度に定員を決めておりますので、変化していくことも考えられますが、現時点では事務局が答えた200名程度だと思います。

委員

地域協議会の議論に沿って再編を進めてもらえるのでしょうか。

県教育委員会

議論の内容によります。新しい土地に新しい校舎を整備するなどの膨大な予算を伴う内容であれば、厳しい財政状況もあり、その通りに再編を進めることはできませんが、教育内容については、できる限り地域協議会の議論を尊重していく方向で検討してまいります。

委員

新しい学科やコースの提案については実現してもらえるのでしょうか。また、他地域においての状況を伺いたと思います。

県教育委員会

新しい学科やコースのご提案については、できる限り実現できるように努めたいと思います。他地域の状況についてですが、新しい学科を導入する方向で検討している地域もありますし、生徒数が減少している状況から、新しい学科を設置して既存の学科が小規模化するのを避けるため、今までの学科を活かして魅力ある学校づくりを検討している地域もあります。各地域の実情に合わせてご協議いただいています。

委員

阿南地域の産業を支えていくという観点から、阿南工業高校の機械、電気、土木の教育は欠かせない学科と考えますが、それ以外に新しい学科を考えていくということですか。

委員

その新しい学科を考えていくことが我々の役目であり、それが今後の議論となると思います。

県教育委員会

生徒数の減少にともなって枠が小さくなる中で、新しい学科を考えていくことになりますので、新しい学科を設置せずに今までの学科をさらに魅力あるものにしていく場合と、新しい学科を導入して魅力づくりをする場合の2通りのケースがあると思います。阿南地域の実情にあったものにしていただければと考えています。

委員

平成30年度までは生徒が増えたり減ったりしますが、平成30年度以降に生徒数は減少していき、現在の80～85%程度になっていきます。そのため、再編時には定員200名でスタートしても、その後160名ぐらいに減少していくことが考えられます。再編後しばらくして、また学科を減らすことはできないと思いますので、平成30年度だけではなく平成34年のことも踏まえて学科について議論していくことが必要と考えます。

県南の産業、工業基盤を支えることから考えても、今までの実績を考えても、阿南工業高校の機械、電気、土木の3分野の教育は必要です。生徒数は減少していきますが、この3学科の存続については地域からも支持されると思います。

また、生徒数が減少していく中で学科も精選していく必要があり、多くの学科を設置することはできないと思いますので、看護、食物などの教育が必要ということになれば、学科やコースではなく総合学科の選択科目として開講することで、生徒のニーズに対応できるようにしていくことがよいと思います。

委員

総合学科の系列の課題として、増加傾向にある女子の受け皿となる系列の検討が挙げられます。現在、情報関係の系列はありますが、商業関係の系列がありません。その検討もしていかななくてはならないと考えています。

委員

高校の定員を男女別に設定することはできないのでしょうか。

県教育委員会

学科や年度によりましては、男女別の希望が偏る場合がありますので、生徒が行きたい学校に進学できるようにするため、男女別の定員の設定は適切ではないと考えております。

委員

今後の日程はどうなっていますか。また、後何回ぐらい地域協議会を開催するのか予定を教えてください。

委員

平成18年度は教育について、平成19年度は場所について協議するという説明だったと思いますが、どうなっているのでしょうか。

委員

総論的な話が続いており、具体的な協議になっていません。今後、どう進めていくのか事務局から説明してください。

事務局

日程については、当初の計画より遅れており申し訳ありません。また、後何回地域協議会を開催するのかについては、今後の議論の状況によっても変わってまいります。日程的に遅れておりますので、ご指摘のように総論から各論に議論を深めるため、次回は事務局でたたき台を提示させていただき、それを基に議論を深めてまいりたいと思いますが、どうでしょうか。

委員

委員の皆様から異論がないようですから、次回は事務局からたたき台を示していただいて、それを基に具体的な議論を進めていくこととします。